



西郷っ子

仲間を思いやる子

自ら学び考える子

たくましくやりぬく子



「子どもたちは楽しい未来を想像できているか？」

校長 遠山 健二

船来山はじめ学校を取り巻く山々の緑色が、日に日に濃くなっていきます。ホタルの時期を迎え、自然も学校の子どもたちも、少しずつ落ち着いてくる時期を迎えています。

年度末から年度初めと、令和4年度西郷小学校の教育活動を編成するために、PTA 役員さん・自治会をはじめ地域の役員の方々とお話をする機会がありました。話の中心になるのは、どうしてもコロナ禍の中、どう子どもたちの活動を保障するのかという話題です。

そんな中、複数の方との間で

「子どもたちは楽しい未来を想像できているか？」

という話になりました。このコロナ禍で、子どもたちは自分の未来を「明るい」「楽しい」と思い描けていないのでは、という心配です。先日、高島PTA 会長さんとお話した際にも、この話題が中心となりました。

いろいろな方と話しながら遠山が悩むのは、子どもたちが楽しい未来・明るい未来を想像できない「原因」は何か、ということです。

「コロナ禍で先が見通せない」

これはかなり大きな要因でしょう。ただし、そうした現実があっても、これからの未来を生きる子どもたちへの「伝え方」については、我々大人は、少し配慮していく必要があると感じています。子どもが未来を「明るい」「楽しい」と思えないのは、我々の世の中に関わる「伝え方」に原因があるのではないかと、この思いです。

今年はじめ、私は本校職員に、

「子どもの身近にいる私たちは、今『いきいきと生きる姿』を児童に見せているだろうか？」

という問いを投げかけました。きっかけはある職員が、

「子どもの将来の夢の上位に、給料が安定しているという理由だけで 公務員 が来るのは、未来・将来への不安感の裏返しだと思う。この不安感を薄めることが今必要だ。」

と話してくれたことです。この言葉、私も全く同感です。この情報化社会の中で、世の中の不安感は放っておけばどんどん子どもの中に広がっていきます。情報を制限できれば一番いいのですが、今の段階ではもう不可能です。となれば、そうした不安感を「薄める努力」が必要だと思うのです。

「不安感を薄める努力」って、なかなか難しいことです。しかし、

「私たち大人が『いきいきと生きる』姿を見せること」

は、大人の意識次第ですぐに取り組めることです。これによって、何かしら

「未来は明るいよ！」というメッセージが子どもに届くと思うのです。

長々とすみません。しかし、今私たち大人が何かしら「動き」を作っていないと、子どもたちの将来が心配です。ご家庭でも、いろいろとお子さんに関わってあげてください。

